



携帯電話用
二次元コード

今号の主な内容

- 3面 自転車はルールを守って安全に
- 4・5面 長寿(後期高齢者)医療制度・国保高齢受給者証
- 6面 新型インフルエンザの受診方法が変わりました
- 8面 観光案内所・まち歩きガイドのご利用を
- 8面 ホームヘルパー2級資格取得費用を助成
- 8面 平和の大切さを伝えるために



しんじゅくコール

☎ (3209) 9999

(午前8時～午後10時、1/1～3を除く毎日)

平成23年オープン すべての世代が集まる場に 旧東戸山中学校活用計画

敷地の愛称を募集



★施設の概要

江戸時代、この場所には蟹川という川が流れ、川沿いには田畑が広がり、尾張藩戸山下屋敷に隣接して武家屋敷がありました。戦後、この土地を整理して東戸山中中学校を建設し、平成17年3月まで、多くの子どもたちの学び舎として使用してきました。計画では、「仮称子ども総合センター棟」「仕事センター・シルバー人材センター棟」を設置し、子育て支援・就労支援の中核的施設として活用します。このほか、「小規模特別養護老人ホーム」「多目的運動広場」など、子どもから高齢者の方まで、すべての世代の方が利用できる場所として整備していきます。

旧東戸山中学校(新宿7-3-29)の今後の有効活用については、新宿区第一次実行計画の方針を示し、これまで、計画内容を地域の皆さんにご説明してきました。平成23年4月までに、全施設の開設・移転を目指しています。今回は、施設の概要を紹介します。また、この敷地全体の愛称を募集します。
【問合せ】子ども家庭課企画係(本庁舎2階) ☎(5273)4260へ。

◆(仮称)子ども総合センター棟

区内で初めて開設する「総合的な子育て支援施設」です。子どもの発達に関する相談・支援を行う「子ども発達センター」、育児不安の解消・仲間づくりを目的とした場の提供や子育て相談、一時保育を行うほか、児童館の機能も併せ持つ「子ども家庭支援センター」、障害児の放課後活動を支援する「障害児等タイムケア」、子どもの放課後の遊びと生活の場である「学童クラブ」を設置します。また、災害時に2次避難所(福祉避難所)として活用できるように整備し、ベッド・トイレなどの物資を備蓄します。

◆仕事センター・シルバー人材センター棟

勤労者の福利厚生と障害者等の就労を支援する「勤労者・仕事支援センター」(第2分庁舎分館2階)と、高齢者の就労等を支援する「シルバー人材センター」(高田馬場1-32-10)を移転し、就労支援サービスを総合的に提供する拠点として整備します。

◆小規模特別養護老人ホーム棟

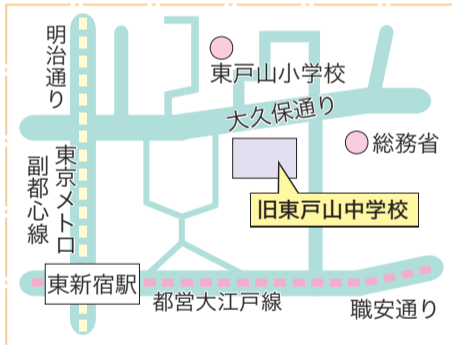
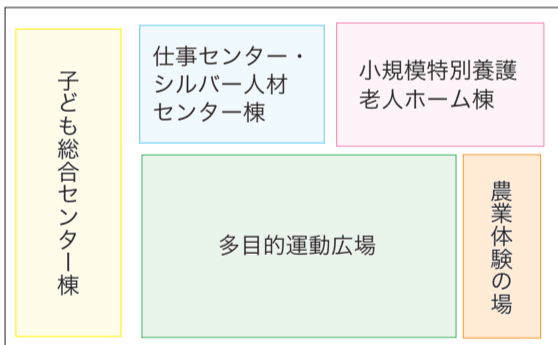
社会福祉法人マザアスが、区が貸与した土地に建物を建設し、小規模特別養護老人ホーム(定員29名、ショートステイ(定員3名)併設)のほか、認知症高齢者グループホーム・小規模多機能型居宅介護の事業所を運営します(22年5月から運営開始予定)。小規模特別養護老人ホームの利用申し込みは、10月から受け付ける予定です。

◆多目的運動広場

人工芝のグラウンドを整備し、土・日曜日・祝日に少年スポーツチーム等の団体に貸し出します。平日は、子どもの遊び場として開放します。避難場所としても活用します。

◆農業体験の場

地域団体が子どもの農業体験事業を実施するための畑と田んぼを整備します。



▲建物のイメージと配置

敷地全体の愛称を募集します

【応募方法】はがきかファックス(愛称とその理由・住所・氏名・勤務先・学校名を記入)で、9月4日(消印有効)までに子ども家庭課企画係(〒160-8484歌舞伎町1-4-1、本庁舎2階) ☎(5273)4260・☎(5273)3610へ。同係・特別出張所に応募用紙と投票箱を設置しています。愛称は選定委員会により選考し、10月中旬に結果を発表します。採用の方(団体)には記念品を差し上げます(採用作品が応募者多数の場合は抽選)。

新宿 まち・人・しごと

山の町で育った私の7月の思い出は、梅雨明けと入道雲のわく夏休みの到来です。廻り来る夏の季節は活力に溢れ、魅力的でした。しかし近年、以前と違う季節の変化を多くの人が実感し、地球環境問題への取り組みを進めています。▼地球

環境問題とともに今、私たちの社会は急速に進む少子高齢化に直面しています。65歳以上の高齢者が半分以上を占める「限界集落」は、過疎化の進むんだ地方だけでなく、新宿の戸山団地などの高齢化を都市の「限界集落」とした報道もありました。都市の高齢化による戸山団地などの状況は、21世紀半ばの新宿ではよくある光景となるでしょう。▼年金・医療等の社会制度を、この急激な少子高齢化にどのように対応させるかが大きな課題となっています。私は、誰もが安心して心豊かに生きることができる社会を皆でどのように創るか、担い手や負担の覚悟も含めて真剣に合意形成していくことの重要性を、強く感じています。▼経済や雇用問題の解決はもちろんです。家族や地域の中での支えあいやNPO等の活動を含め、少子高齢社会にあって誰もが担い手となって、安定した社会を築いていかねばと思えます。若者が夢と希望をもち、将来社会に想像力をもち、信頼・協働をキーワードに新たな共生の時代を皆さんとともに発信したいと願っています。

区長 中山 弘子